

## はじめに

岸和田東ロータリークラブは、創立以来、青少年育成事業に力をそそいでまいりました。海外交換留学生の支援をはじめとして、近年の主な事業としては、「市内中学生による吹奏楽合同演奏会『スターフェスティバル』の開催」、「市内小学校におけるお茶体験授業」、「近畿小児糖尿病患者・家族の会〔つぼみの会〕のサマーキャンプ支援」、「地区青少年育成セミナーへの参加」、「インターアクトクラブ（14歳から18歳の青少年を対象とし、奉仕と交歓を目的とする）の提唱クラブとしての支援などがあります。

本年はさらに、国際ロータリー100周年記念事業の一つとして次世代フォーラム「未来を拓く高校生会議」を企画しました。次世代の社会に対する目を育て将来社会を担っていく力、すなわち、つくり上げたい社会への構想とそれを運営していく力を育てることを目標に、課題として地域文化を取り上げました。

岸和田市内の大阪府立、岸和田市立、学校法人、合わせて5校の高校生に意見発表と意見交流をしてもらい、地域の伝統的文化、身の回りにある色々な文化に目をむけ、豊かな生活づくりを目指してもらいたいと思いました。将来、地元で活躍する人、地域をあとに日本各地、世界で活躍する人さまざまですが、育った地域についての認識を深めるとともに、これを機会に町づくりネットワークの中心になって欲しいという欲張りな企画でした。私たちが一番心配致しましたことは、高校にこのような学校外の行事に参加、協力していただけるのかどうかということでした。しかし、それは杞憂に終わりました。

当日、会場は満員で約220人のご参加をいただき、椅子の追加をしたほどでした。又、後日、テレビ岸和田から90分の番組として放映されました。このように盛大に終えることが出来ましたのも素晴らしい基調講演をしていただきました、紙野陽子岸和田市立図書館長をはじめ、各高校の先生方、PTA、同窓会の皆様、市民の皆様方、近隣のロータリーの皆様の温かいご支援、ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

市内の高校生の討論、交流は初めての事と伺っています。ささやかな取り組みですが、その足跡をまとめることにより、活動が何かの形で受け継がれ広がって行くことを願ひまして、記録冊子を作成致しました。

最後になりましたが、当日お寒い中をご参加下さいまして、熱心に耳を傾けていただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。

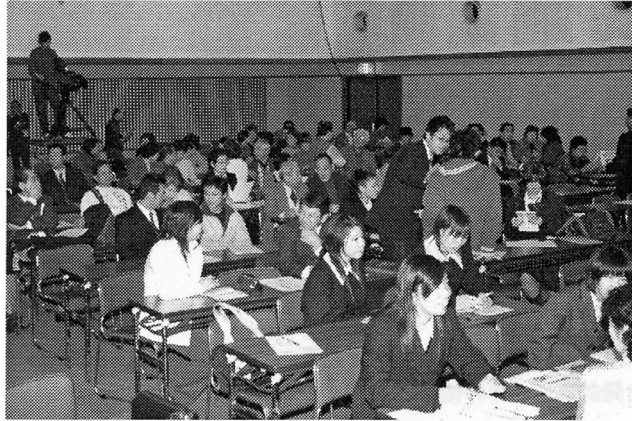
2005年3月吉日

岸和田東ロータリークラブ  
新世代奉仕委員長

坂東 桂子

## ■ 次世代フォーラムを終えて ■

岸和田東ロータリークラブ 夏原 晃子



2004年9月、「子供の権利条約を知って欲しいネ」という坂東委員長の想いから始まり、子供の環境を護ることについて皆で考えてはどうかと始まりました。

まずは子供を伸ばす力になる図書館の紙野館長に講演をお願いしました。昔話や自治条例まで、心に響く講演を頂いた紙野館長に深く感謝しています。

次に次世代の担い手である高校生に、もっと地域の文化を知って拡げてほしいと思い、共通の通過点として泉州地区に暮らす五つの高校の生徒達に「つなぐ」をキーワードに、さらに次代へとつながるよう、それぞれの言葉として表現しては、という考えに辿り着きました。

今回のテーマの「次世代に伝えたい身近な文化」は、地域の文化を考えることで大人になっても自分が育った地域に関心を持ち続けて欲しいという願いも込められています。

岸和田には府立、市立、私立を含む五つの高校があります。五校と文化に関する通の認識を持てるような新聞の切り抜きを手掛かりとして、話を重ねました。岸和田東ロータリークラブの委員の方達の情熱的な働きかけが五校の参加の原動力となり、先生方や参加者の熱意となって、生徒達のそれぞれの体験に基づいた心強い発表となりました。当日は、パネラーはもとよりその背後も大きいのは言うまでもありません。

この次は若い人達が、地域文化を「拓き」それを見守る大人達と、生徒達の次世代の子供達まで心が「つながる」ことを願うばかりです。

若者は短期間の経験からでも様々なことを実に良く吸収して、大人が見過ごすような所まで感じ取っているのには驚かされます。産まれる前からの親の愛が勇気を育み、青少年時代の体験を通して人生観を育てていくのだと改めて思いました。「体験は燃料だ。それを燃やしながら生きていこう」と詠うのは、私の尊敬する詩人メイ・サートンです。

お互いが尊重し合える暮らしや、街並みを護り環境を育てる、かって常識や不文律として伝えられてきたものを、今の大人は次代に伝えているでしょう。